



写真 [Photographs] 海の観音さまに会いにく Moomin Family goes on a picnic to see Kannon 2014 撮影:宮沢晋、飯山由貴

「あなたの本当の家を探しに行く」

10月24日 夜

「この家はわたしの本当の家じゃない」と泣き出して もう線がきれている電話から、 「本当の家を探しにパジャマで外に出ようとするので 暗い庭先で、今日は雨が降っているから天気の良い日に行こうと声をかける。 「一緒に『本当の家』を探したい気持ちになるが、母が顔をしかめて首を横に振るのであきらめる。 確かに明日は仕事もあるし、外は寒そうだし こういうときどういう対応をしたらいいのかわからない。 ではない、わたしたちがいま暮らしているのはいい家だ、いい家だ、いい家だ。 11月18日 夜 あなたの本当の家を探しにいってみよう。

幻聴や幻覚をもつ家族が具合が悪くなったとき、わたしたち家族は多少うんざりしつつ、戸惑いつつ、落ち着くのを待つ。彼女はこうしてこうなるのか考える、さっきの会話が頭に障ったんだらうかと。それもあるかもしれないが、傍目には何もなくても具合が悪くなる時もある。よくわからない。彼女はあの有名なアーティストのように自分に見えるものを絵画にしたりはできない。アウトサイダー・アートとよばれる芸術の展覧会が開かれていたりするけれど、精神に障害の言葉はあまりつかないが、持った人が、幻聴や幻覚を表現できること自体がもししたら希有なこと、表現の仕方もうまく見つけられないまま、投薬して生活している人のほうが多数なかもしれない。私自身は大学で絵を描いたり造形する人に囲まれて生活していたから、感覚が麻痺していたんだと思う。だれでも何かしら作ったりできると思っている。でも、それでもなく、できることではないことが人それぞれあると、妹と数年前に一緒に暮らしてみても気づく。そして、それを互いに補うことができることも。

彼女が具合が悪くなったときに語る言葉は不思議だ。あの日は、ずっと自分が生まれ育った家に暮らしているのに、本当の家を探しに外に出かけようとした。いったんその世界に入ると、家族がかける言葉は彼女に届いていないのかよくわからないし、とても強い力で行動するので3人がかりで引き止める。引き止められないときもある。そもそものときの彼女の記憶とか経験はどうなっているのだろうか。彼女の言葉を本音でやってみたら、なにかわかるのだろうか。家族のひとりには言うこと聞かないとまた入院させるよという言葉がでてしまうくらい、老人と病人と一緒に暮らすことに疲れている。たぶんそんな家族はほかにも沢山いるんだらう。わたしたちが暮らす街は田舎なせいか、すぐに入院できる病院は、患者が幻聴や幻覚の症状があると何をやるかわからないし、スタッフの目が行き届かないという理由で保護室に入れる。都会の病院がどうかは知らない。保護室というのは、あばれたり幻覚をみたりすると入れられる部屋で、そこにはなにもない。彼女の主治医もたまに、入院したいんですか?と、圧力をかける意味でその言葉を使う。しかし後で、あのときこう言われてつらかった、と話したら、決して脅したりしたわけじゃない、そういうふうには聞いたら悪かった、と主治医は謝った。しかし、それはそれで、幻聴や幻覚があること自体が罪のようだ。彼女は父母が死んだあと1人で生きていけるのか不安に思っている。わたしは「八月の鯨」のように暮らすように朝ごはんを食べながら声をかける。これですこしは不安が取まるのだからかと思いつつ、わたしがいつか家族とはなれて暮らすだろう、老人になつたら同じく老人の彼女と一緒に暮らすだろう。投薬以外の、人生におけるなか、精神の病気を持つ人間に強く影響するのはなんとかわかる。恋とか友達とか夢とか趣味とか。言葉にすると陳腐だけど、彼女は家と病院とコンビニとショッピングモールが生活圏で、デイケアに行けるようになることが、ここ数年の彼女の目標だ。彼女に、人生におけるなか、が、いつおきるのか、わたしも待つている。でもいま、わたしたちはこうやって一緒にいることもできる。

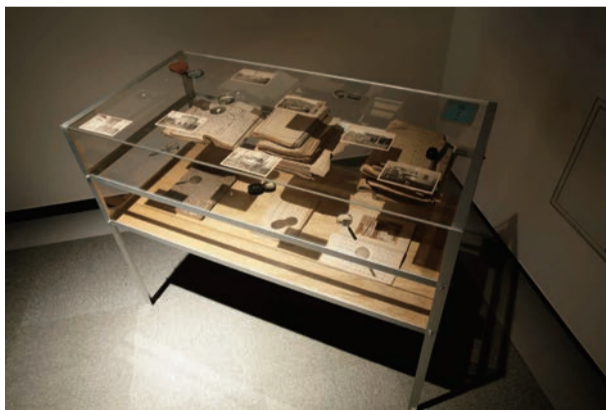
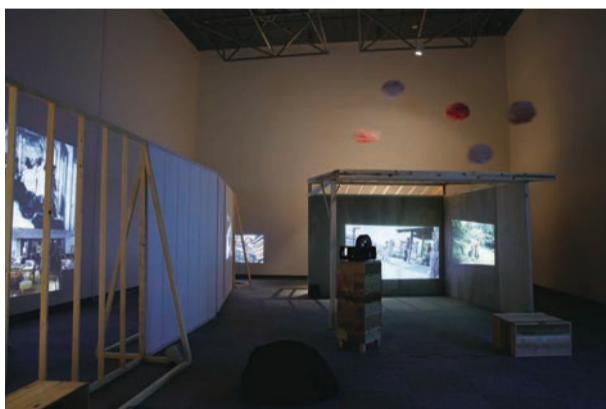
飯山由貴 展覧会のためのノート「101」 | 101 | www.yukiyo.com

2022年8月30日「火」-11月30日「水」 東京都人権プラザ 1階企画展示室 休館日「日曜日祝日は開館」時間「9時30分-17時30分」入場無料 企画展示室への入場は17時00分まで

主催「東京都人権プラザ」指定管理者「公益財団法人東京都人権啓発センター」



展示風景 | Exhibition view コンニチハ技術トシテノ美術 Nice to meet you ARTECHNIK 2017 / せんだいメディアテーク



展示風景 | Exhibition view Temporary home, Final home Temporary home, Final home 2015 / 愛知県美術館

YUKI IYAMA “We walk and talk to search your true home”

飯山由貴 あなたの本当の家を探しに行く

飯山由貴(いいやま・ゆき) 美術作家、神奈川県生まれ。東京都を拠点に活動。 映像作品の制作と同時に、記録物やテキストなどから構成されたインスタレーションを制作している。過去の記録や人への取材を糸口に、個人と社会、および歴史との相互関係を考察し、社会的なステイグマが作られる過程と、協力者によってその経験が語りなおされること、作りなおされることによる痛みと回復に関心を持っている。近年は多様な背景を持つ市民や支援者、アーティスト、専門家と協力し制作を行っている。近年の主な展覧会として、2022年「地球がまわる音を聴く:パンデミック以降のウェルビーイング」(森美術館、東京)、2020年「ヨコハマトリエンナーレ2020 AFTERGLOW—光の破片をつかまえる」(横浜美術館、神奈川県)、2017年「コンニチハ技術トシテノ美術 Nice to meet you ARTECHNIK」(せんだいメディアテーク、宮城)、「Words coming out of the words」(ART HUB三軒庄、福岡)、2015年「APMoA Project, ARCH vol.16:飯山由貴 Temporary home, Final home」(愛知県美術館、愛知)、2014年「あなたの本当の家を探しにいこう」(ムーン・家になって海の観音さまに会いにく」(WAITINGROOM、東京)

※新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、会期変更・入場制限の可能性あります。また、ご来館にあたりましては、感染拡大防止策にご協力をお願いいたします。詳細は東京都人権プラザホームページでご確認ください。 【アクセス】 ○都営三田線 芝公園駅 A1出口 から徒歩3分 (エレベーターはA3出口) ○都営浅草線・都営大江戸線 大門駅 A3出口 から徒歩7分 (エレベーターはA1出口) ○JR線・東京モノレール 浜松町駅 南口(金杉橋方面)から徒歩8分 (エレベーターの利用は改札で駅係員にお尋ねください) ※身体障害者の方や、公共交通機関の利用が難しい方の専用駐車スペースをご用意していますので、事前にご連絡ください。 【お問い合わせ】 東京都人権プラザ 〒105-0014 東京都港区芝2-5-6 芝256スクエアビル1・2F TEL: 03-6722-0123 URL: https://www.tokyo-hrp.jp/

精神障害がある人の語りと向き合うこと、寄り添うこと。 精神障害とは、精神疾患のため精神機能の障害が生じ、日常生活や社会参加に困難をきたしている状態のことをいいます\*。精神障害は「見えない障害」のひとつであり、患者と患者以外の人の境界も明瞭ではなく、誰しもが発症する可能性があります。 本展では、美術作家・飯山由貴さんの映像作品を通して、精神障害がある人の語りと向き合うこと、寄り添うことの在り方を示します。精神障害のある妹と共に制作した「あなたの本当の家を探しにいこう」、「海の観音さまに会いにく」、そして、精神病院がどのような場所として機能し、精神障害のある人の語りがどのように扱われてきたのかを考察する「hidden names」をきっかけに、精神障害への差別や偏見のない社会に向けて、自分にできることを考えてみましょう。

\*東京都福祉保健局特設ホームページ「ハートシティ東京」より (https://www.fukushihoken.metro.tokyo.lg.jp/tokyoheart/shougai/seishin.html)



関連動画 飯山由貴インタビュー動画 配信予定(東京都人権プラザホームページ内で告知)

